

リスクアセスメント報告書			No. 2	社	管理責任者
リスクアセスメント対象		実施年月日	作成者（安全推進室長）	長	
全社標準		平成29年5月16日	松沢増美 印		

No.	危険要因の洗い出し			リスク見積り(現状)		リスク評価(現状)	リスク低減対策	対策後のリスク見積り(予測)		対策後のリスク評価(予測)	改善に当たり考慮すべき事項	優先順位
	作業名	災害に至るプロセス		可能性	重大性	リスクレベル		可能性	重大性	リスクレベル		
		～するとき	～したので									
15	型枠組立	型枠を組立中	ハンマーが滑り、	手袋をしていない手を叩いた。	△	△	3	保護具の着用。	○	○	1	
16	屋上、一部解体	パラペットRC部解体時	コンクリート破片が落ちて	下の作業員に当たる	×	×	5	作業域下を立入禁止措置。メッシュシート等飛来落下防止措置	△	○	2	併せて監視員を置く
17	鉄管切断	ハンドグラインダーで鉄管を切断中	粉塵が飛散し	目に入る	×	×	5	防護メガネ、保護面、防塵マスクを使用	△	○	2	
18	雨樋の補修	移動式はしごを昇降中	はしごが滑り	墜落する	×	×	5	はしご上端部を突き出し緊結する。	○	○	1	
19	内装作業	脚立足場上を移動中	足場板が転移し	バランスを崩して墜落する	△	×	4	足場板を3点支持しゴムバンド等で緊結する	○	○	1	
20	屋内壁塗装	塗料を調合している時	揮発物質を吸い込み	急性中毒になる	△	×	4	換気を常時行い保護マスク等を着用する	○	△	2	
21	足場設置	足場を組立中	バランスを崩し	墜落する	△	×	4	手すり先行足場を採用。安全帯を使用。	○	△	2	
22	PC, RC, ALC目地	シーリング剤を加工、充填	シーリング剤が皮膚に付着し	皮膚刺激または発疹が出る	△	△	3	手袋、保護衣等を着用し皮膚の露出を抑える。	○	○	1	
23	クレーンによる荷の移動	吊り上げた荷を下ろすとき	荷が横ぶれし	作業員に接触した	×	△	4	荷の移動範囲内、立入禁止措置。介錯ロープを使用する。	○	○	1	合図の統一
24	支障木伐採	立木を切り倒す	木が予定外の方向に倒れ	下敷きになる	△	×	4	チルホール等で適度に牽引し伐倒方向に誘導する	○	○	1	
25	伐採木集積	重機にて丸太を集積する	作業半径内へ立入	木材と激突する	△	×	4	重機作業半径内立入禁止とする	○	○	1	
26	伐木造材	チェーンソーで伐採、造材中	長時間連続作業をし	振動障害を起こす	△	×	4	連続作業時間を最長で10分以内とする	○	○	1	併せて防振手袋を使用
27	足場での作業	足場上で作業	手すり、棧が外れていた	気づかず墜落する	△	×	4	足場等作業前点検の実施を徹底する 安全帯を使用する	○	○	1	
28	屋根塗装作業	屋根の塗装をするとき	端部でバランスを崩して	墜落する	△	×	4	外部足場を利用する。安全帯を使用。	○	○	1	
29	鉄骨建て方	クレーンで鉄骨を吊り上げ	取り付け位置で鉄骨が揺れて	手指が挟まれる	△	×	4	介錯ロープを使用し二人作業にて行う	○	△	2	

※ リスクの評価基準

(可能性ランク)	(記号)
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○
【詳細】	
3ヶ月に1回程度	×
6ヶ月に1回程度	△
年に1回程度	○

(重大性ランク)	(記号)
極めて重大	×
重大	△
軽微	○
【詳細】	
休業1ヶ月以上・死亡	×
通院・休業1ヶ月未満	△
微傷・軽打撲程度	○

(リスクの見積もり)	(リスクの評価(判定))	(レベル)
×	極めて大きい(受け入れ不可能)	5
×△、△×	かなり大きい(受け入れ不可能)	4
○×、×○、△△	中程度(受け入れ不可能)	3
○△、△○	かなり小さい(許容可能)	2
○○	極めて小さい(受け入れ可能)	1

(レベル)	(リスクへの対応)
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)

リスクアセスメント報告書				No. 1		社		管理責任者	
リスクアセスメント対象			実施年月日		作成者（安全推進室長）		長		
全社標準			平成29年5月16日		松沢増美 印				

No.	危険要因の洗い出し			リスク見積り(現状)		リスク評価(現状)	リスク低減対策	対策後のリスク見積り(予測)		改善に当たり考慮すべき事項	優先順位	
	作業名	災害に至るプロセス		可能性	重大性	リスクレベル		可能性	重大性			
		～するとき	～したので									～(事故の型)になる
1	バックホウによる掘削・積み込み・埋め戻し	バケツで土砂を掬い上げ	旋回したとき土砂が落下し	近くの作業員に当たる	△	×	4	機械の作業半径内、立入禁止措置。	○	○	1	併せて誘導者を置く
2	〃	仮設道路を開設するためバックホウで掘削	掘削土の上に乗りバランスを崩し	転落し運転手が挟まれる	△	×	4	重機の足下を常に整地しながら作業する	○	△	2	
3	土砂運搬	ダンプトラックが後進	運転手の死角に作業員がいた	轢かれる	△	×	4	誘導者の指示に従う。	○	○	1	合図を統一する
4	〃	土砂を運搬するとき	ダンプトラックに過積載をした	制動距離が延び、一般車に追突した	△	×	4	ダンプのアオリ高さ以下に積載する。	○	○	1	
5	機械掘削	重機を工事用道路上で移動	誘導員の配置を怠り	重機が路肩より転落し運転手が挟まれる	△	×	4	路肩を明示し誘導員を配置する	○	△	2	合図を統一する
6	車輛系建設機械始業前点検	点検作業中	機械が不意に動き出し	巻き込まれ轢かれる	○	×	3	輪止めの設置、サイドブレーキを利かせる。	○	○	1	
7	転圧作業	タイヤローラーで転圧作業中	運転手の死角に作業員がいた	轢かれる	△	×	4	作業区域立入禁止措置。	○	○	1	
8	アスファルト舗装工	フィニッシャーのホッパーを清掃する時	機械を停止していなかった	巻き込まれる	○	×	3	エンジンを停止しキーを抜く。	○	○	1	
9	〃	人力で敷均しをする時	車道へ出てしまい	一般車と接触する	△	×	4	誘導者の配置	△	○	2	合図を統一する
10	〃	表層舗設作業中	合材が身体に触れて	火傷をする	△	△	3	手袋、安全靴等の保護具の完全着用	○	○	1	
11	法面整形	人力により整形中	浮き石を落とし	下方の作業員に当たる	△	△	3	上下作業とならないよう並行作業をする	○	○	1	
12	法枠吹き付け工	モルタル吹き付け	モルタルが飛び散り	目に入る	×	△	4	ゴーグル等の保護具を着用する	○	○	1	
13	法面作業	法面で移動中	バランスを崩し	転落する	△	×	4	常時、親綱とライフラインで確実に身体を確保する。	○	○	1	
14	コンクリートブロック製作	コンクリート打設のホッパーをクレーンで吊り	型枠の上部付近に下ろしたところ	作業員とホッパーが接触した	△	△	3	誘導者を配置する	○	○	1	合図を統一する

※ リスクの評価基準

災害の可能性

(可能性ランク)	(記号)
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○
【詳細】	
3ヶ月に1回程度	×
6ヶ月に1回程度	△
年に1回程度	○

災害の重大性(けがの大きさ)

(重大性ランク)	(記号)
極めて重大	×
重大	△
軽微	○
【詳細】	
休業1ヶ月以上・死亡	×
通院・休業1ヶ月未満	△
微傷・軽打撲程度	○

リスクレベル

(リスクの見積もり)	(リスクの評価(判定))	(レベル)
×	極めて大きい(受け入れ不可能)	5
×△、△×	かなり大きい(受け入れ不可能)	4
○×、×○、△△	中程度(受け入れ不可能)	3
○△、△○	かなり小さい(許容可能)	2
○○	極めて小さい(受け入れ可能)	1

リスクへの対応

(レベル)	(リスクへの対応)
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)

リスクアセスメント報告書				No. 浦②—1 → (現場毎の通し番号)				部長 検印	受 付 印
リスクアセスメント対象現場		実施年月日		現場代理人		実施者			
浦川復旧治山工事②		平成18年 8月 2日		現場代理人氏名 印		実施者氏名 印			

No.	危険要因の洗い出し			リスク見積り(現状)		リスク評価(現状)	リスク低減対策	対策後のリスク見積り(予測)		対策後のリスク評価(予測)	改善に当たり考慮すべき事項	優先順位	
	作業名	災害に至るプロセス			可能性	重大性		リスクレベル	可能性	重大性			リスクレベル
		～するとき	～したので	～(事故の型)になる									
1	2階水平(つり棚)足場組立て	手摺り部材の小運搬中に	バランスを崩し	墜落し、1階床に激突する	×	×	5	運搬量を過大にしない	△	○	2	2	
								安全ネット(防網)を設置する				1	
2	土地整理進入路築造	バックホウが斜路を走行中に	オペレーターが目測を誤り	法肩から転落しオペレーターがバックホウの下敷きとなる	○	×	3	誘導者を配置し、適正に誘導する	○	○	1	1	
リスクレベルが3～5の場合に、リスク低減対策を実施。 リスク低減対策の後、1～2の評価となる。													
☆ 本、報告書は着手前・作業方法等を新規に採用、又は変更するとき等、工事内容の変化に応じて提出する。													

※ リスクの評価基準

災害の可能性	
(可能性ランク)	(記号)
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○
【詳細】	
3ヶ月に1回程度	×
6ヶ月に1回程度	△
年に1回程度	○

災害の重大性(けがの大きさ)	
(重大性ランク)	(記号)
極めて重大	×
重大	△
軽微	○
【詳細】	
休業1ヶ月以上・死亡	×
休業通院1ヶ月未満	△
微傷・軽打撲程度	○

リスクレベル		
(リスクの見積もり)	(リスクの評価(判定))	(レベル)
×	極めて大きい(受け入れ不可能)	5
×△、△×	かなり大きい(受け入れ不可能)	4
○×、×○、△△	中程度(受け入れ不可能)	3
○△、△○	かなり小さい(許容可能)	2
○○	極めて小さい(受け入れ可能)	1

リスクへの対応	
(レベル)	(リスクへの対応)
5	受け入れ不可能なリスクであり、即座に他の方法へ回避する必要がある
4	受け入れ不可能なリスクであり、抜本的な対策を実施する必要がある
3	受け入れ不可能なリスクであり、何らかの対策を実施する必要がある
2	許容可能なリスクであり、現時点では特に対策の必要がない(残留リスクあり)
1	受け入れ可能なリスクであり、対策の必要がない(残留リスクあり)